平成 29 年度　校内研修計画

大藤小学校

１．学校課題

大藤地区は，緑が豊かで，古くから，桃，すもも，ぶどうなどの果樹栽培を中心としている地域である。学校と地域との結びつきが強く，保護者や地域は学校教育に関心が高く，深い理解のもと様々な活動にとても協力的である。本校が取り組んだ「開かれた学校づくり」の研究や「甲州市確かな学力育成プロジェクト」等の様々な取組によって，より一層地域との結びつきが深まってきている。児童は，温かく優しい地域の人々に見守られ，明るくのびのびと生活している。

本校児童は４９名。今年度から２，３年生が複式学級となった。１３名から３名まで学年ごとに人数に幅がある。

課題としては，小規模校ゆえに「集団の中で多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会，切磋琢磨の機会が少なくなりやすい」ことがあげられる。課題に対応して近年は，少人数と全体を場に応じて使い分けた授業，少人数に対応した授業を行ってきた。昨年度は，TV 会議システムを利用した他校との交流などを行い，小規模校のデメリットを無くす取組を行ってきた。今年度は，その課題に対応し，有効な方法を絞り込んでいきたい。

２．研究主題

「自ら考え，課題を解決できる児童の育成」
～つなぎ，学びあう少人数での学習集団づくりを通して～

３．主題設定の理由

（１）社会の要請から

社会のグローバル化が進み，知識基盤社会といわれるこれからの時代を，主体的に，自立した人間として生き抜いていく資質や能力，つまり学習指導要領にうたわれる「生きる力」の育成が，学校教育に期待されている。

（２）学校教育目標及び子どもの実態から

本校の学校教育目標は『自ら考え，正しく判断し，行動する児童の育成』である。具体的には，「自ら考えて学習する子ども」，「健康で明るい子ども」，「思いやりの心をもつ子ども」，「協力しやりぬく子ども」，「郷土を愛する子ども」の５つの姿を目指している。それを受けて，「確かな学力の育成」，「豊かな心の育成」，「健康でたくましい心と体の育成」，「地域に開かれた学校づくり」を重点目標としている。

知の側面である「確かな学力の育成」のために，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して思考力・判断力・表現力等を育み，主体的に学習に取組む態度を養うことが必要である。本校の特性である少人数のアドバンテージを生かした研究にしていきたい。そのために，Q-U，NRT 検査，全国学力学習状況調査，県学力把握調査の分析を行い，それを活用して児童一人ひとりの実態を丁寧に把握する。一人ひとりの個性が生かされるようなきめ細かくダイナミックな授業展開を追究する。それにより，少人数であっても，子ども同士を豊かにつなぎ，学びあう集団を育成することにより質の高い授業が構築できるものと考える。

（３）少子化・人口減少に対応した活力ある学校推進事業の研究指定から

本校は，一昨年度から「少子化・人口減少に対応した活力ある学校推進事業」の研究指定を受け，TV 会議システムを活用した他校との交流や ICT の活用計画表づくりを行った。ICT を一つのツールとして取り入れて２本の研究授業を行い，研究主題にせまることができた。各学年の実践や他校との交流の様子などを報告書にまとめた。

４．研究仮説

自分の思いや考えを友達の言葉と関わらせながら伝えることができる力をつけ，少人数におけるつながり合い学習集団・自ら学び合う学習集団づくりを行うことにより，自ら考え，課題を解決できる児童が育つであろう。

サブテーマにしている「つなぎ・学びあう学習集団」とは，全員が共通の目標をもって学びながら，一人ひとりが認められる集団であり，互いに刺激しあいつつ，協働して高めあっていくことのできる集団である。

本校では，２～５名程度の母集団の人数が少ないことを「少人数」と定義し，少人数を生かした授業を研究する。

「つなぎ・学びあう集団」に育てていくためには，授業の中で子どもたちが積極的に対話し，安心して精一杯学習に取り組めることが大切である。そのためには，子どもたちに　課題を明確に把握させ，学習の見通しをもたせるようにする。単に，自分の考えを発表するにとどまらず，協働して学習し，自ら自身の学習を振り返る。このような授業を展開することにより，自ら考え，問題を解決できる児童が育つであろう。

５．研究の具体的内容と方法

Ⅰ　少人数や集団における効果的な学習方法と授業実践
　・めあてと目的を明確にした一人一実践を行う。
　・少人数の良さを生かした授業実践を行い。

Ⅱ　ICT を利用した実践
　・学校や地域の良さを積極的に外部へ発信する。
　・edutab と TV 会議システムの活用研修会を行う。
　・どの場面で使い，目的と効果を明確にした授業改善を行う。
　・総合の時間を中心に地域学習を行い，ふるさと山梨への応募や地域への発信を行う。
　・ICT 活用計画表の実践と見直しを行う。

Ⅲ　児童の実態と集団づくり
　・ＮＲＴ検査・全国学力テスト・県学力把握調査を分析して日々の実践に生かす取組を行う。
　・K-13 簡易法を用いた QU の結果分析とアタックシートを活用した集団づくりを行う。

Ⅳ　学びを促す環境作り
　・昨年度，統一した「自主学習ノート」の年間を通しての実施を行う。
　・見直しした「大藤スタンダード」の活用を図る。

６．年間研修計画

研究主任　　川野　和昭

回数	研究テーマ	教科・領域	担当	学年	授業時期	TC要請
1	今年度の方向性について	授業改善	川野	全		
2	学校課題，研究主題，研究内容・方法，年間計画，アンケートについて edutabの使い方について	授業改善 ICTの活用	川野	全		
3	学校課題，研究主題，研究内容・方法，年間計画について 家庭学習について	授業改善 学級集団づくり	川野 堀内	全		
4	TV会議システムの有効利用について （講師　山梨県立大学教授　八代一浩先生	ICTの活用	川野	全		
5	NRTの分析とK13法によるQ-Uの分析（１，２学年と全校）	学級集団づくり	堀内 廣瀬尚 有井	1,2年		
6	NRTの分析と）K13法によるQ-Uの分析（３，４学年）	学級集団づくり	広瀬沙 川野	3,4 年		
7	NRTの分析とK13法によるQ-Uの分析（５，６学年） アンケートの分析	学級集団づくり	荒井 坂本	5,6年		
8	４学年総合指導案検討	ICTの活用 授業改善	川野	全		
9	４年生総合研究授業	ICTの活用 授業改善	川野	全	７月中旬	○
１０	教育課程研修還流報告会 県学力把握調査の分析と対策について	授業改善	有井 川野	全		
１１	研究授業２回目授業案検討とICTの有効活用について	ICTの活用 授業改善	授業者	全		
１２	研究授業２回目授業案検討	ICTの活用 授業改善	授業者	全		
１３	研究授業２回目	ICTの活用 授業改善	授業者	全	１０月中旬	○
１４	１１月１１日の6年生道徳授業案検討と実施	授業改善	３校	全		
１５	K13法によるQ-Uの分析（４，５，６学年）	学級集団づくり	川野 荒井	4，5，6年		
１６	K13法によるQ-Uの分析（１，２，３学年）	学級集団づくり	広瀬沙 有井 廣瀬尚 堀内	1，2，3年		
１７	少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業の報告書作成について	ICTの活用 授業改善	川野	全		
１８	後半のアンケートの考察,	授業改善	藤原	全		
１９	研究紀要作成について	授業改善	川野	全		
２０	県指導重点について 研究の成果と課題について	授業改善	校長 川野	全		
２１	研究紀要製本	授業改善	川野	全		